

関西における地域の特色を生かした観光・集客交流事業の促進に  
関する取り組み実態調査及び事業促進手法の検討  
～ 「産業ツーリズム」の持続的な推進に向けて ～  
報告書 概要版

平成19年3月 近畿経済産業局

## 0. 調査の目的と概要

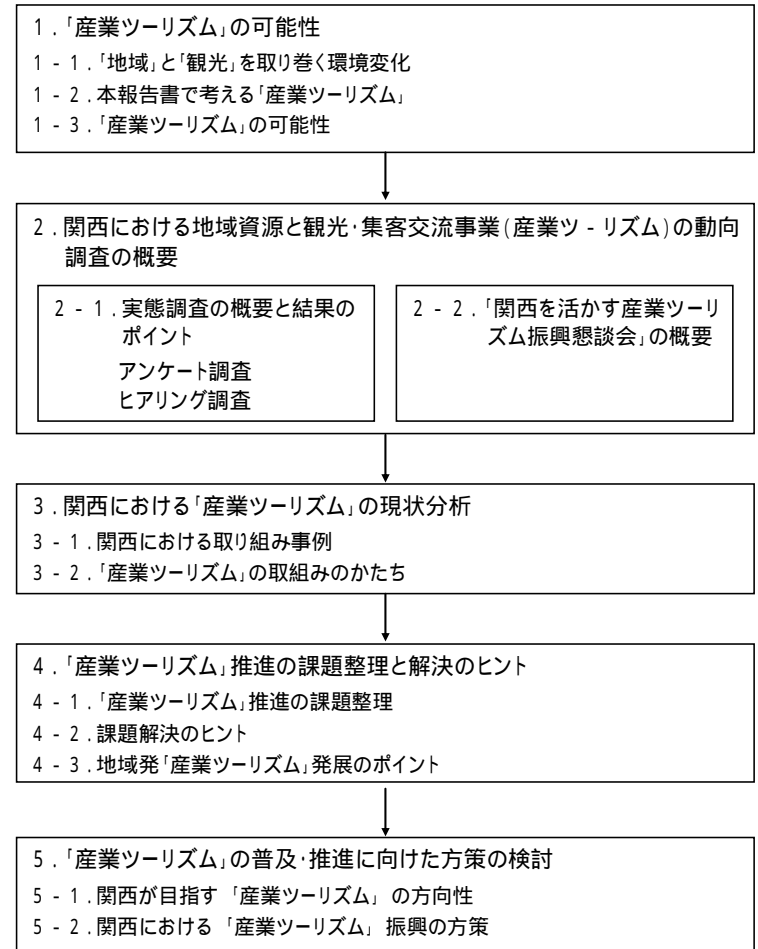
### 【調査の目的】

- 地域資源を活用した新たな観光・集客交流事業の取り組みを展開、加速させていくために、既に取り組みを進めている地域の活動実態について詳細に把握・分析することにより、経済的・人的効果や推進方策などについて整理し、これから取り組もうとする地域や取り組み始めた地域が、具体的に、どのように地域資源を発掘、活用し、地域活性化につなげていくかの道筋を明らかにする。
- また、一地域単独ではなく、周辺地域との広域連携の仕組みづくりなどより効果的な展開に向けた事業策を検討する。

### 【調査の視点】

- 本調査において、分析の対象とする観光・集客交流事業を、新たな「旅行」の概念として「産業ツーリズム」として表現する。
- なお、地域の自然、歴史・文化、産業など、地域内で培われた地域資源を核として事業を行ない、地域経済の活性化やまちづくり活動等との相乗効果を狙って継続的に展開される事業を主たる分析の対象とし、地域で行なわれている一過性のイベントなどは除いて考えることとする。

### 【調査の構成（調査検討フロー）】



## 1. 「産業ツーリズム」の可能性

### 1 - 1. 「地域」と「観光」を取り巻く環境変化

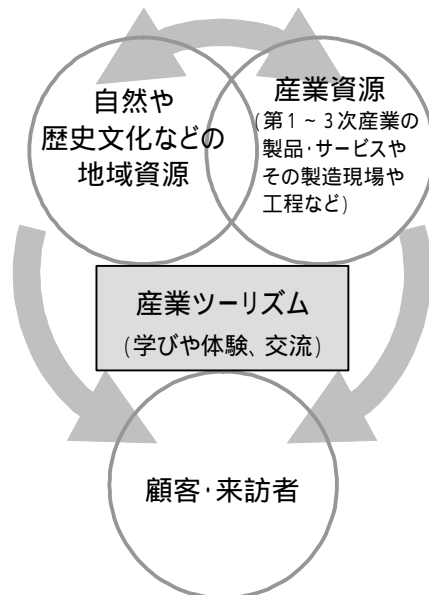
人口減少社会の本格的到来

基幹産業の活力低下からの新たな活路の模索

多様化・高度化する来訪者のニーズ

インターネットの普及による旅行流通・旅行地選択の多様化

市民活動の活発化とアクティブシニア世代への期待の高まり



### 1 - 2. 本報告書で考える「産業ツーリズム」

「産業ツーリズム」とは、来訪者の学習欲、知識欲や人びととの交流を行ないたいといった多様化・高度化するニーズに対して、地域が主体的に応えることによって、さまざまな地域資源を対象とした、「学びや体験、交流」といった活動が行なわれることである。

「産業ツーリズム」の核となる「地域産業資源」さまざまな主体が意思を持って、「地域」との関係を意識しながら取り組む「産業ツーリズム」地域経済の活性化、まちづくりへと広がる「産業ツーリズム」

### 1 - 3. 「産業ツーリズム」の可能性

地域の独自性が発揮された「産業ツーリズム」が、優位性を生み出す

「産業ツーリズム」は、地域のさまざまな主体をつなぐ

情報通信インフラの活用が地域発の「産業ツーリズム」を後押しする

「産業ツーリズム」が媒介する「外」の「まなざし」と「交流」が地域を活性する

## 2. 関西における地域資源と観光・集客交流事業（産業ツーリズム）の動向調査の概要

### 2-1. 実態調査の概要と結果のポイント

#### (1) 実態調査の概要

##### アンケート調査の実施概要

**調査名** 「近畿地域における観光・集客交流事業の実体把握に向けたアンケート」

**実施時期** 2006年8月下旬～9月下旬

**調査対象** 近畿2府5県の全市町村(本庁/支所、支部)、観光協会等、商工会議所等の一部

**調査方法** 郵送配布・回収(行政分については全数回収を目標とし、電話による返信催促等を実施)

#### 配布・回収状況

総発信数580 / 回収数323 / 回答率 55.7%。

なお、自治体のエリアベースでは97.8%をカバーしている。(地域では、観光協会の事務局を自治体内に置くケースも多く、自治体、観光協会、商工会・商工会議所のいずれかから回答があった場合は、エリアベースで回答があったものとした。)

#### ヒアリング調査の実施概要

**実施時期** 2006年10月～2007年1月

##### (管内事例)

	市町村	テーマ
1	福井県 おおい町(旧名田庄村)	(株)名田庄商会による特産品開発・製造販売
2	滋賀県	着地型観光の推進
3	" 安土町	「あづち実践観光塾」
4	" 彦根市	彦根学習型観光(ユビキタス観光)、彦根城下町検定
5	京都府 京都市	京都検定、琵琶湖疏水を活用した広域産業観光事業
6	" 長岡京市	蘇るたけのこ掘り観光体験事業
7	" 亀岡市	田舎体験・体感観光プログラム
8	" 宮津市	宮津天橋立絵手紙ツアー/クッキングツアー
9	" 綾部市	NPO法人による都市農村交流事業、広域観光協定
10	大阪府 大阪市	大阪ナイトカルチャー
11	" 八尾市	「ものづくりのまち・八尾」担い手育成のための工場見学会
12	" 堺市	観光資源ネットワーク形成
13	" 和泉市	産業観光ツーリズム事業
14	" 泉南市	地域の漁業組合による地引網体験、青空市場
15	兵庫県 西宮市	西宮洋菓子園遊会
16	" 朝来市(旧生野町)	「鉱石の道」産業遺産エコ・パーク創造プロジェクト
17	" 宍粟市	農業体験と地酒づくりの会
18	和歌山県 高野町	高野山森林公園自然体験プログラム
19	" 白浜町(旧日置川町)	大好き日置川の会
20	" すさみ町	(株)アすさみ、ケンケンかつおブランド化

##### (管外事例)

	北海道 札幌市	カルチャーナイト
	" 空知地域	そらち・産業遺産と観光
	茨城県 つくば市	つくばサイエンスツアー
	愛知県 名古屋市ほか	名古屋を中心とした東海地域の産業観光の取組み

## (2) アンケート調査の結果のポイント

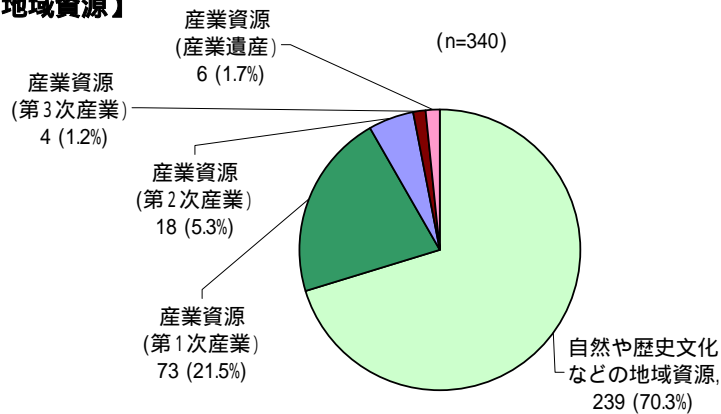
観光・集客交流事業に積極的に取り組む意向を持つ団体は多く、推進が期待される

- ・ 回答団体の約3割が「現在、観光・集客交流事業を積極的に取り組んでいる」、その倍の6割が「今後、積極的に取組みたい」と回答。

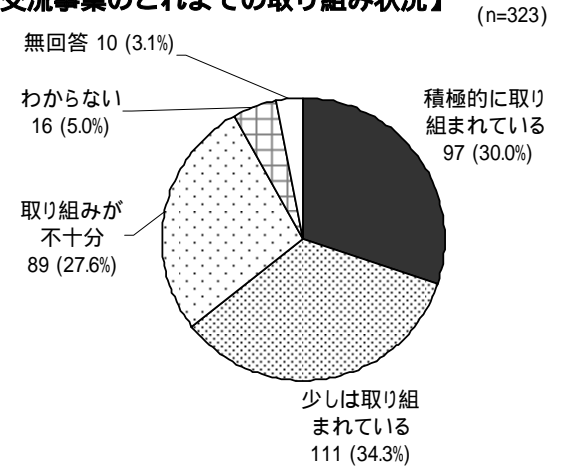
### 【事業と活用している地域資源】

- ・ 観光・集客交流に関する具体的な取り組み事業は340の回答があり、地域の自然や産業、歴史、生活文化を生かした、集客・観光イベントをはじめ、特産品/地域ブランドの開発、フィルム・コミッション、地域検定、観光振興プランの策定など、さまざまな取り組み。
- ・ 活用している地域資源は、「自然や歴史文化などの地域資源」がもっとも多く、7割程度を占めている。ついで、産業資源(第1次産業)が続いている。

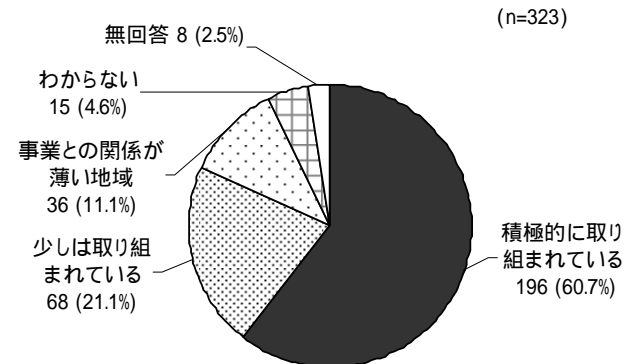
### 【活用している地域資源】



### 【観光・集客交流事業のこれまでの取り組み状況】



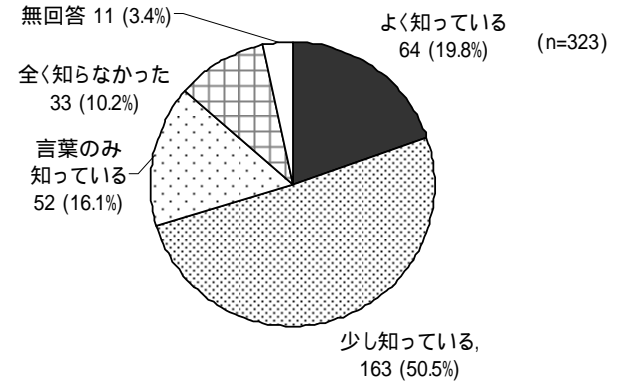
### 【観光・集客交流事業の今後の取り組み状況意向】



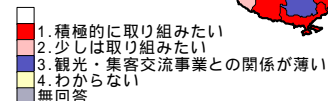
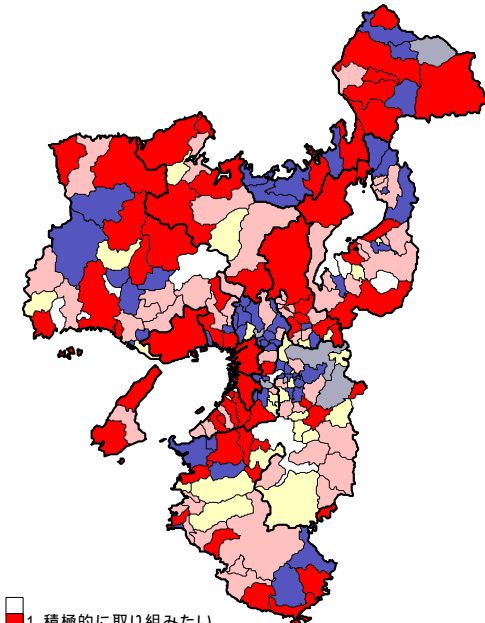
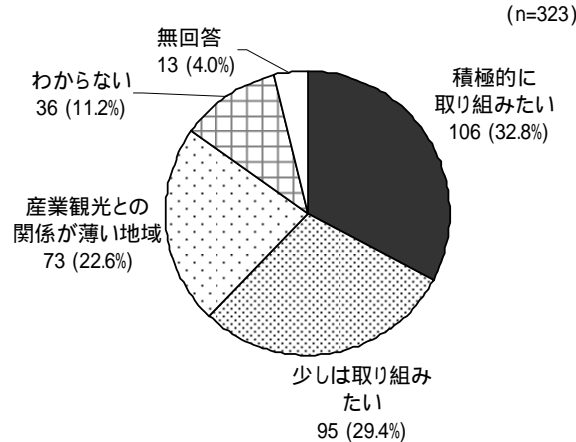
「産業観光」の認知度は低い、今後の取り組み意向は高い

- ・ 「産業観光」をよく知っていると回答した団体は19.8%に止まっている。また、「強み」とする地域資源のうち産業観光資源の回答数は、他の地域資源の回答数を下回っており、現状では「産業観光」の認知度はやや低くなっている。
- ・ また、全体の3割強が「今後、産業観光を積極的に取組みたい」と回答している。観光・集客交流事業に積極的に取り組み意向を持つ団体の多くが「産業観光」に対しても積極的であり、一体的な取組みの推進が期待できる。

【産業観光の認知度】



【産業観光に関する今後の取り組み意向】



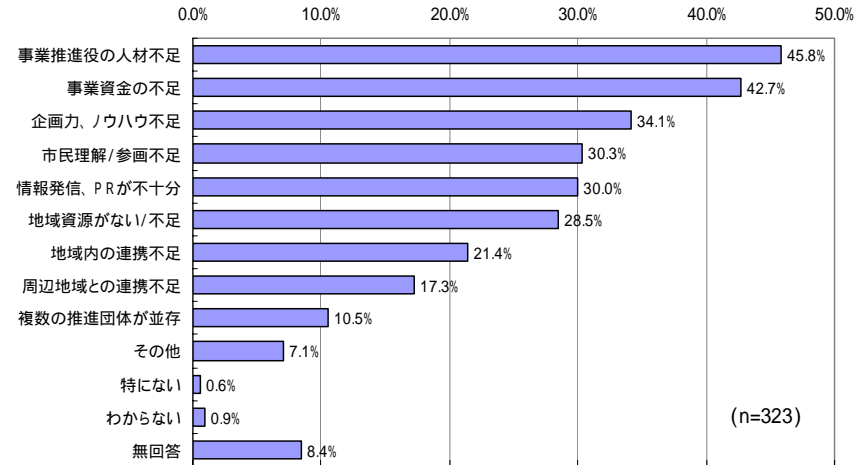
豊富にある地域資源は把握しているものの、その活用方策は不透明な団体も少なくない

- ・「現在活用している、若しくは今後活用したい産業観光資源がある」と回答した団体は6割程度。地域の特性に関するその強みについても9割程度の団体が回答し、地域が有する資源については、地域内での把握は進んでいる。
- ・一方、観光・集客交流事業の内容に関する具体的な記述は6割程度に止まり、活用イメージはあるが事業化へと進んでいない地域資源、さらには活用イメージも浮かばない地域資源も多い。

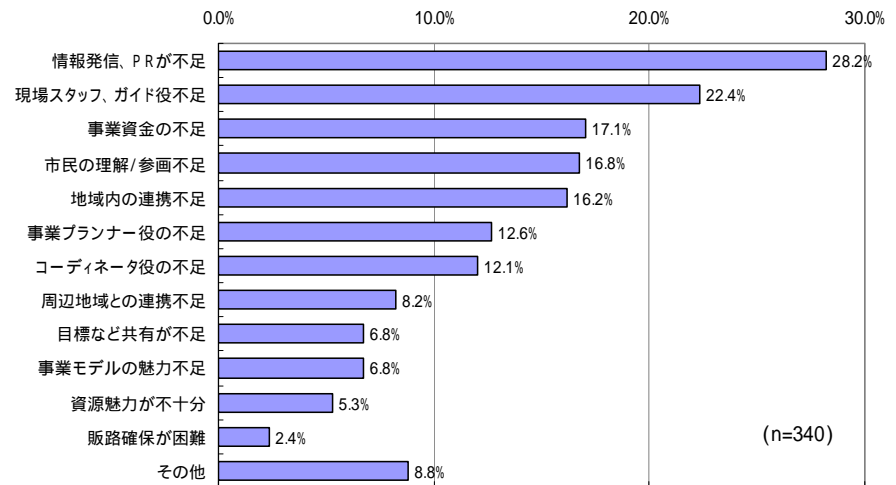
観光・集客交流事業を進める上の問題点・課題は、人材（育成と啓発）、企画力や情報発信力の不足が上位に

- ・地域全体の問題点・課題として、「事業推進役の不足」が「資金不足」を上回っており、「市民の理解不足／参画が消極的」との回答も多い。また、「企画力やノウハウが不足している」、「情報発信やPRが不十分」との回答も多くソフト力の不足を指摘する回答も多い。
- ・個々の事業を推進する際には、「資金不足」とならんで、「現場スタッフ／ガイド役の不足」、「市民の理解不足／参画が消極的」との回答が多くなっている。

【観光・集客交流事業を進める上での問題点・課題（地域全体）】



【観光・集客交流事業を進める上での問題点・課題（事業推進上の課題）】



## 2. 関西における地域資源と観光・集客交流事業（産業ツーリズム）の動向調査の概要

### 2-2. 「関西を活かす産業ツーリズム振興懇談会」の概要

#### (1) 「関西を活かす産業ツーリズム振興懇談会」の実施概要

**開催日時** 2007年1月16日(火) 13時30分～15時30分

**開催場所** 近畿経済産業局 内 第6会議室

#### 参加メンバー

(有)地域観光プロデュースセンター 代表	吉見 精二氏
伏見観光協会 専務理事	永山 恵一郎氏
(財)大阪観光コンベンション協会	中村 哲也氏
(社)ひょうごツーリズム協会産業ツーリズムアドバイザー	荒木 茂顕氏
NPO法人 和歌山ほんまもん体験倶楽部 事務局長	刀根 浩志氏



#### 主な意見

「産業ツーリズム」は、地域の価値、その「誇りと自信」を育て、継承するための有効な手法

「産業ツーリズム」のための地域資源の掘り起こし  
「産業ツーリズム」が提供する価値を、市場にどのように伝えるか

「産業ツーリズム」の原動力となる、地域の人材の発掘とその育成が大きな課題

事業化の各局面で抱える課題

関西各地の多様なテーマ・魅力が繋がれば顧客ニーズに応える 「関西力の向上」に資する

## 3 . 関西における 「産業ツーリズム」 の現状分析

### 3 - 1 . 関西における取り組み事例

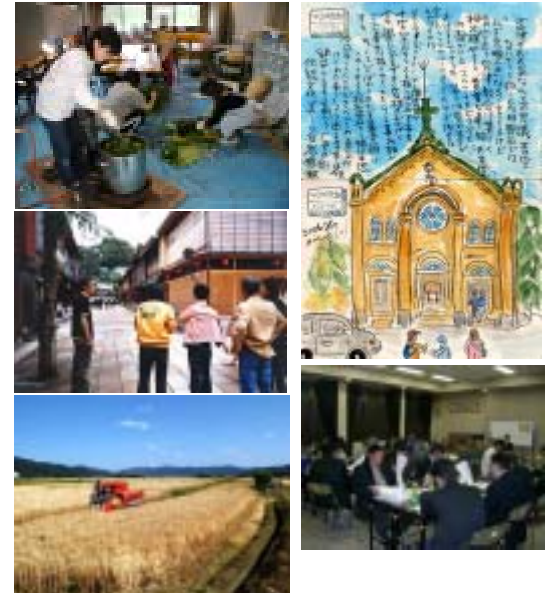
〔「産業ツーリズム」の特徴による区分〕 関西地域では、さまざまな地域資源を活用して、数多くの「産業ツーリズム」の取り組みが進められていることがヒアリング調査により明らかになった。

関西地域での「産業ツーリズム」の取り組み事例を以下に示す、特徴による区分に沿って整理する。

- ( 1 ) 地域資源を最大限に活かした 「産業ツーリズム」
  - 自然や歴史文化などの地域資源を活かした「産業ツーリズム」
  - 産業資源を活かした 「産業ツーリズム」
  - 「学習や体験・交流」を促がし、その魅力を高める 「ニューサービス」  
の開発・提供
  
- ( 2 ) 「産業ツーリズム」による地域活性化の取り組み
  - 「産業ツーリズム」による産業振興とまちづくりの進展
    - a . 産業振興に寄与する 「産業ツーリズム」
    - b . 地域のまちづくりにつながる 「産業ツーリズム」
    - 地域間の連携を促がす「産業ツーリズム」

## (1) 地域資源を最大限に活かした「産業ツーリズム」 自然や歴史文化などの地域資源を活かした「産業ツーリズム」

- ・ 自然、歴史文化等の地域資源を巡るウォーキング・ハイキング、豊かな自然環境のなかでのスポーツ体験など、「健康志向」の高まりに対応する取り組みが多くなっている。
- ・ 歴史文化などの地域資源を活用して、地域のアクティブシニアなどがボランティア・ガイドとして案内するガイド・ツアーの開催や、ガイドの派遣などに取り組む地域が多くなっており、その多くで、観光協会等が窓口・受付業務を行なっている。
- ・ 自然や歴史文化などの地域資源を組み合わせ、地域の歴史的、文化的な背景を語るストーリー（物語）によってつなぐルート設定を行なっているケースもあり、そうした取り組みは、「深く、楽しく学びたい」というニーズに応えるものとなっている。
- ・ また、「エコ・ミュージアム」と呼ばれる、地域の景観や、そこでの暮らしぶり、生活文化などを含めた「地域の総体」を対象とした取り組みも行なわれている。



- 高野山森林公園自然体験学習プログラム【和歌山県 高野町】
- まちなか観光（宮津天橋立絵手紙ツアー、クッキングツアーなど）【京都府 宮津市】
- 観光ガイド「まいどさん」【石川県 金沢市】
- 田舎体験・体感観光プログラム【京都府 亀岡市】
- 「あづち実践観光塾」を通じた着地型観光の推進【滋賀県 安土町】

## 産業資源を活かす

### 【第1次産業】

- 産業資源を活用した「産業ツーリズム」では、農林漁業など一次産業の就業体験を提供する取り組みが多くなっている。その多くは日帰り型であるが、ワンストップで地域の体験プログラムのPRや地域への取次ぎを行なう機関を設けて、広域的に多様な体験プログラムのメニューを提供し、来訪を促進しているケースもある。
  - 和歌山ほんまもん体験倶楽部【和歌山県 全域】
  - 大好き日置川の会【和歌山県 白浜町(旧・日置川町)】
  - (株)ノアすさみ、ケンケンかつおブランド化【和歌山県 すさみ町】
  - 地引網体験、青空市場【大阪府 泉南市】
  - 「農業体験と地酒づくりの会」【兵庫県 宍粟市】



### 【第2次産業】

- モノ作り系の産業分野での体験・体感を重視した取り組みはまだ少数であるが、特産加工品や酒造業などの食品製造業や、地場産業・伝統産業での工艺品等のモノ作り体験をプログラムとして提供しているケースもある。
  - 産業観光ツーリズム事業【大阪府 和泉市】
  - 最先端技術を巡る「つくばサイエンスツアー」【茨城県 つくば市】
  - 名古屋を中心とした東海地域の産業観光の取組み【愛知県 名古屋市ほか】
  - カルチャーナイト【北海道 札幌市】



## 【産業遺産】

- ・ 地域の中心的産業であった産業分野の遺産や、土木構造物、近代的建築物をはじめ、その工場、事業所・宿舍等の付帯施設等を見学する「産業ツーリズム」に取り組む地域もある。これらは、構造物、建築物単体ではなく、その周辺の施設、町並み等と一体的に提供することによって、その魅力を高めることが目指されている。



- 「鉱石の道」産業遺産エコ・パーク創造プロジェクト【兵庫県 朝来市 生野町】
- 琵琶湖疏水を活用した広域産業観光事業【京都市・京都商工会議所】
- そらち・産業遺産と観光【北海道 空知支庁】



## 「学習や体験・交流」を促がし、その魅力を高める「ニューサービス」の開発・提供

- ・ 「産業ツーリズム」の魅力を高め、来訪者の満足度を高めるため、これまでにない新しい視点や技術等を取り入れることにより、新しいサービス(ニューサービス)を提供する取り組みが進められている。

### 【潜在顧客の開発につながる「ニューサービス」】

- 大阪ナイトカルチャー【大阪市・大阪商工会議所】

### 【IT（情報通信技術）の利活用】

- ユビキタス技術を使った彦根学習型観光【滋賀県 彦根市・彦根商工会議所】
- 「大阪まちあるき」音声観光ウォーキング【大阪市・大阪観光コンベンション協会】

### 【「ふるさとオーナー制度」、農家民泊など】

- 都市農村交流から定住化の促進を目指す【京都府 綾部市・里山ねっと・あやべ】

### 【「ご当地検定」の実施】

- 「ご当地検定」京都検定、彦根城下町検定など【京都市、滋賀県彦根市など】

### 【フィルム・コミッションによるロケーション・サービス】



## (2) 「産業ツーリズム」による地域活性化の取り組み

### 「産業ツーリズム」による産業振興とまちづくりの進展

#### a. 産業振興に寄与する「産業ツーリズム」

- ・「産業ツーリズム」のイベント事業と絡めて、特産品のPRや販売機会を提供しているケースが多くなっている。「産業ツーリズム」の来訪者の声を聞き、農林水産品の商品開発や改良に活かすとともに、生産者と消費者が対面・交流することによって、生産者側の意識を高めることも目指されている。
- ・また、地場産業・伝統産業を「産業ツーリズム」を通じて発信し、産業のブランド化や後継人材の確保といった、地域産業が抱える課題を解決することを狙った取り組みも進められている。
  - 町の総合商社・(株)名田庄商会【福井県 おおい町 (旧・名田庄村)】
  - 「ものづくりのまち・八尾」担い手育成のための工場見学会【大阪府 八尾市】
  - 新たな地域資源の創出 ～ガラス細工とフィギュア～【滋賀県 長浜市】
  - 西宮洋菓子園遊会【兵庫県 西宮市】



#### b. 地域のまちづくりにつながる「産業ツーリズム」

- ・まちづくり活動との関連では、地域資源の掘り起こしとともに、人材の発掘や参画の促進、実践を通じた人材の育成、地域の誇りや愛着を育てることを狙った取り組みが進められている。さらに、地域住民だけでなく来訪者をリピーター、ファンへと育てながら、地域外の人材も巻き込んだ活動に意図的に取り組んでいる地域も見られる。
- ・特に、自治体や商工会・商工会議所が連携・ネットワークを促がすための連携の場づくりを積極的に行なうことにより、まちづくりを支える新たな人材の発掘や育成、多様な主体の連携・ネットワークの強化につながっているケースもある。
  - 蘇るたけのこ掘り観光体験事業【京都府 長岡京市】
  - 「あいとうエコプラザ菜の花館」の視察観光など【滋賀県 東近江市】
  - 「なら燈花会」【奈良市】
  - 観光資源ネットワーク形成【大阪府 堺市】



## 地域間の連携を促がす「産業ツーリズム」

- ・ 周辺地域との連携を進めることによって「産業ツーリズム」の魅力を高めると同時に、「産業ツーリズム」の推進によって、地域間の連携を強化するといった相乗効果を狙った取り組みも行なわれている。また、連携によって、多様化する来訪者のニーズにより応えることが可能となるとともに、「産業ツーリズム」が広域での地域間連携を加速させる手段として機能し、広域でのまちづくりの推進にもつながっている。
  - (社)伏見観光協会の周辺地域との連携【京都市 伏見区】
  - 綾部市、小浜市、おおい町・2市1町の広域観光協定【京都府綾部市、福井県小浜市・おおい町】
  - ひょうごツーリズム協会の工場見学【兵庫県】



### (3) 取り組み状況のまとめ

- ・ これまで見てきた関西で取り組まれている「産業ツーリズム」の取り組み状況は、以下のように整理することができる。
  - 多彩な地域資源の魅力を組み合わせ、ストーリー（物語）とともに伝える「産業ツーリズム」
  - 見学・学習だけでなく、体験・体感を重視した取り組みへ移行
  - 都市住民・教育旅行をターゲットとした、第一次産業資源を活かした取り組み
  - 工場見学等のモノ作りやサービス産業の「産業ツーリズム」は、取り組みの草創期
  - 「産業ツーリズム」の魅力を高める「ニューサービス」の開発・提供

## 3 - 2 . 「産業ツーリズム」の取り組みのかたち

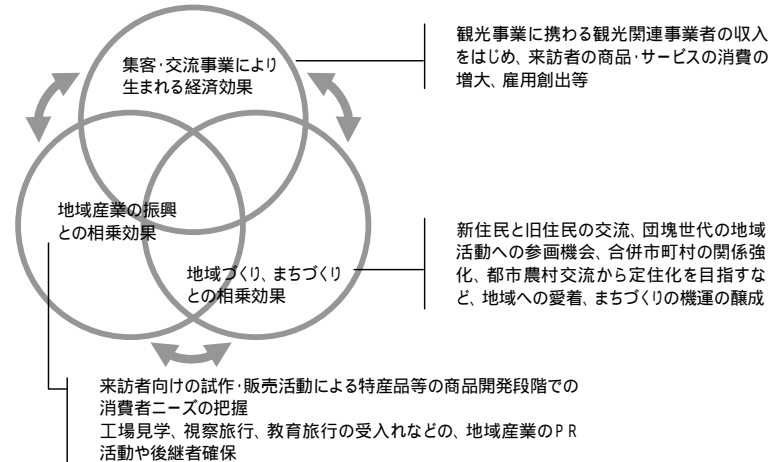
### (1) 「産業ツーリズム」の2つの基点

- 「産業ツーリズム」の目的と目指す効果の実現に主眼をおいて取り組みが開始されるケースや、「地域資源」を活用することに主眼をおいて取り組みが開始されるケースなど、その動機やきっかけは、地域特性に応じた異なるケースが想定される。

地域づくりの課題と目標	事業の目的と効果	ターゲット
地域資源の発掘と再発見	産業ツーリズム	来訪者
人的資源と推進体制	連携	持続的な地域の発展

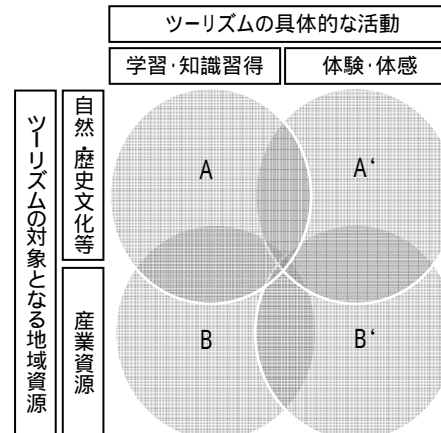
### 多層・複合的な事業の目的と目指す効果

地域づくりの課題や目標達成の解決のために、「産業ツーリズム」の取り組みが進められるケースでは、その「目的や目指す効果」は、以下に示すような3つの方向に整理することができるが、複合的・重層的で、地域が抱える課題と表裏一体のものとなっている。



### 「産業ツーリズム」の核となる地域資源

地域資源は、「産業ツーリズム」の中核となる素材であり、地域の「誇り」を伝えるものである。地域資源の魅力を磨き、気づかれていない地域資源を再評価していくことが、「産業ツーリズム」の創出と魅力アップにつながる。



## (2) 3ステップの事業プロセス

「産業ツーリズム」の3ステップと、ターゲットに届ける情報発信・PR

- ・「産業ツーリズム」の事業推進は、【 地域資源の発掘・創造】、【 事業化・商品化】、【 定着・持続】という3ステップと、そのための【 情報発信・PR】に分けられる。

### 【 地域資源の発掘・創造】

どのように、地域資源を見出すか目利きを行ない、活性化に向けた取組みにつなげていくかを考える最初のステップ。地域資源を発掘し、自然や歴史文化など、その地域が持つ特徴と組み合わせ、ストーリー(物語)として示すことによって、他地域との差別化が図られる。それによって、地域資源を「地域の強み」につなげていく段階。

### 【 事業化・商品化】

見出された地域資源を「産業ツーリズム」に仕立てるために、ターゲット・来訪者のニーズを第一に、地域資源の優位性を高めるサービスや商品づくりを進め、顧客を創出し、事業をスムーズに発展させていく仕組みと体制を構築する段階。

### 【 定着・持続】

できあがった「産業ツーリズム」を効率的に進めながら、地域に定着させ、持続的な取組みにしていくための人づくりと輪の拡大をはかりながら、変化に対応していく段階。

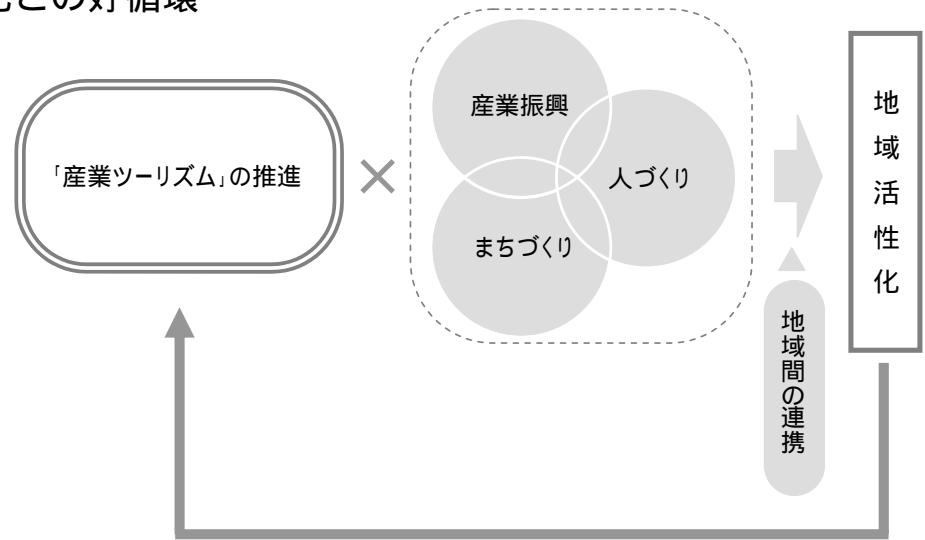
### 【 情報発信・PR】

「地域」で行われる「産業ツーリズム」は、その取り組みを知ってもらうことから始まり、地域とターゲットを媒介する、情報発信・PRがとりわけ重要となっている。

### (3) 「産業ツーリズム」が生む地域活性化との好循環

「産業ツーリズム」は、それが持続的に推進されることにより、産業振興やまちづくり、それに携わる人づくりといった地域活性化につながり、地域間の連携による促進も期待できる。

さらに、こうして「地域活性化」が実現した地域では、新たな目標も明らかになり、その実現に向けた「産業ツーリズム」に再び取り組むといった、地域活性化との好循環が生まれることとなる。



「産業ツーリズム」と地域活性化の好循環

地域経済を支える 産業振興 への寄与

- ・ 地域資源を素材とした、特産品・土産品等を開発・販売する
- ・ 来訪者への試作品の提供を通じて、市場ニーズを把握し新商品開発や改良に役立てる
- ・ 特産品等の販売や情報発信等につながる「市」の開設等のイベントを開催する
- ・ 地域の基幹産業の魅力を伝え、後継人材の確保などに寄与する  
地域資源とその価値を継承していく まちづくり活動の促進
- ・ 地域の多様な主体が参画する議論の場づくり
- ・ 過疎化、活力低下が進む農村部等における都市農村交流活動  
産業振興とまちづくりを牽引する 人づくり
- ・ こうした地域のリーダー、プレイヤーを中心に、地域内外のコーディネーター等の専門人材の支援や、自治体、商工会・商工会議所、観光協会などのネットワークを活かすことによって、新たな人づくりが促進

地域間の連携による 相乗効果

- ・ 河川流域・舟運、街道等、地域の地理的・歴史的なつながりを軸にした広域的な連携
- ・ 環境問題等、地域課題を共有し、解決の先進的な取り組みの参考とするための視察

## 4. 「産業ツーリズム」推進の課題整理と解決のヒント

### 4-1. 「産業ツーリズム」推進の課題整理

関西地域の「産業ツーリズム」を推進する地域が抱える課題は、以下のように(1)～(5)の局面から整理することができる

#### ● 課題(1) 「産業ツーリズム」の目標設定

～ 将来への展望を持ち、長期的な視点に立った目標設定が必要 ～

#### ● 課題(2) 人づくりと、参画の土壌づくり

～ 目標を共有する人材の発掘、育成、そのネットワーク化の促進 ～

#### ● 課題(3) 事業化の着実なステップ・アップ / 地域資源の発掘・創造

～ 地域資源を磨き、掘り起こし、組み合わせるための、柔軟な視点の設定 ～

#### ● 課題(3) 事業化の着実なステップ・アップ / 事業化・商品化

##### 【サービス・商品づくりの創意工夫】

～ 市場サイドの発想からの、地域ならではの創意工夫の取り組み推進～

##### 【ターゲットの設定と、顧客開発・マーケティング】

～ 地域の「強み」を活かすターゲットの設定と、顧客開発の多様なアプローチ～

##### 【事業の実現可能性の検証】

～ 地域とニーズとのマッチングの検証と、そのフィードバック～

#### ● 課題(3) 事業化の着実なステップ・アップ / 定着・持続

～ 顧客ニーズに応える サービス・商品のイノベーション～

#### ● 課題(4) 地域と顧客を結ぶ情報発信・PR

～ 地域情報をターゲットに届ける、情報発信・PR力の強化～

#### ● 課題(5) 地域独自・多彩なメニューの提供のための推進体制の構築

～ 「産業ツーリズム」を支える「地域力」の向上～

## 4 - 2 . 課題解決のヒント

### (1) 「産業ツーリズム」の目標設定

地域の「誇り」をベースにした将来展望を事業に参画する関係者が共有することによって、持続的な「産業ツーリズム」の推進が可能となる。

「誇り」は、地域資源を丹念に見なおすことにより明らかになることも多い。そして、自らの手でそれを守っていくためには、外部の資本の思惑に迎合しないという姿勢も必要となる。

### (2) 人づくりと、参画の土壌づくり

所属する組織や役職に拘らず、意欲のある個人を発掘して、協力を得ていくことが有効である。そして、「産業ツーリズム」の実践を通じて、個々の能力の向上をはかりながら、「もてなしの心」を育てていくことも可能となる。

事業者や住民などに対して、活動に取り組む最初の動機づけをし、それを継続するためには、参画するメリットや可能性を、幅広い見地から検討し、わかりやすく示していくことが有効である。

「産業ツーリズム」をリードする人材をつなぐために、幅広いネットワークを有する自治体や商工会・商工会議所、観光協会などが、議論し考えを共有する場を用意することによって効果をあげる。

### (3) 事業化の着実なステップ・アップ

#### 地域資源の発掘・創造

身近にあるものを見直すこと、外の「視線」を取り入れ価値を捉えなおすことで、地域の独自性を見出すことも可能となる。また、高齢化が進む中で高まる「健康志向」、「ホンモノ志向」など、市場のニーズと関連づけることで、従来、着目されてこなかった地域資源にも新たな活用方策が見えてくる。

「学びや体験、交流」の要となる「人」。地域の「人材」こそ、貴重な資源であり、事業推進の「原動力」である。体験や見学だけでは伝えきれない地域の思いを「語り部」が伝えることによって、より深い「学びや体験、交流」が生まれる。

地域の「価値」をわかりやすく伝えるためのサービスを付加し、便利なツールを提供する。ストーリー（物語）仕立てのルート設定、案内情報の提供、地域資源の再発見も可能となる。

#### 事業化・商品化

#### 【サービス・商品づくりの創意工夫】

来訪者の感じる、「驚き、発見、楽しさ、喜び」をキーワードに、地域の特性に応じた「地域ならではの」の発想で取り組みを進め、魅力的なサービス・商品を提供することが重要である。

## 【ターゲットの設定と、顧客開発・マーケティング】

周辺に主要な観光資源がある場合は、その集客力を最大限に活かす方策を検討する。また、地域の住民や就業者も視点を変えれば、有望なターゲットとなり、そこから取り組みの内容も絞られる。

教育旅行での、体験・体感を重視した「産業ツーリズム」への関心は高く、まとまった集客が可能となる。また、産業資源の強みは、海外、特にアジア地域の関心も高いことから、積極的な取り組みが有効である。

市場ニーズに精通した民間人材の登用を進め、効果をあげている地域もある。また、地域のこだわりと市場のニーズとをうまくマッチングさせるコーディネーターの存在も重要となっている。

自治体、商工会・商工会議所など支援機関が有するネットワークは、地域の「強み」の一つであり、それを最大限に活用することで、ターゲットに近づくことが可能となる。

顧客サイドに近い、流通業などの中間ユーザーや、テーマ毎のサークル活動組織や教育機関など、外部機関との連携を図ることにより、ターゲットへの具体的なアプローチが可能となる。

## 【事業の実現可能性の検証】

「産業ツーリズム」のモニターツアーを開催することにより、実際的な課題が明らかになる。来訪者の事業の評価や意見をフィードバックすることにより、より魅力的な「産業ツーリズム」へと再構成することも可能となる。

異なる分野の地域資源を組み合わせることによって、バラエティに富んだ新しい魅力を付加することが可能になる。また、産業振興やまちづくりの事業を組み合わせることによって、事業の相乗効果の発揮を目指すことが重要となる。

地方部など、人材の限られている地域においては、来訪者のノウハウやスキルを積極的に活かしていくことが有効である。そうした関係性を築けるような交流を育みながら、「主客一体」の取り組みを進めることによって、新たな展開も可能となる。

#### ( 4 ) 地域と顧客を結ぶ情報発信・PR

地域メディアへの積極的なプレスリリース、良好な関係づくりが、地域の情報発信力をアップさせる。

IT(情報通信技術)は、「行ってみたい」と思わせる生き生きとした情報を低コストで発信することを可能にしている。画像、音声、映像などのマルチメディア、ブログやメーリング・リストなど、多様な情報発信ツールを活用することにより効果が高まる。

#### ( 5 ) 地域独自・多彩なメニューの提供のための推進体制の構築

「産業ツーリズム」を推進する初動期には、自治体はその先導役としての役割を担うことが期待される。自治体のリーダーシップにより、推進の基盤を整えながら、民間主導、住民主導の取り組みへと移行することにより、その独自性を伸ばすことができる。

地域の「産業ツーリズム」に関係する事業者等に対し、相互にメリットを確認しあえるウィン・ウインの関係づくりを進めることにより、連携が強化される。

周辺地域と連携して取り組むことで、スケールメリットが生まれ、来訪者の選択の幅を広げることにつながる。また、周辺の自治体へ類似の取り組みが広がることも、地域のアピール力も高める相乗効果を期待できる。

## 4 - 3 . 地域発 「産業ツーリズム」 発展のポイント

地域の主体的な取り組みである地域発「産業ツーリズム」への発展のポイントについて整理する。

持続可能な「産業ツーリズム」を目指す

- ・ 地域の産業、まちの将来を見据え、地域の事業者や住民が主体的に参画し、地域固有の文化・環境を保全、継承することによって、「地域の誇りと自信」を次代へと引き継がれていく。そのためには、客を選ぶことも必要となるし、身の丈にあった適正規模の事業モデルを考えることも求められる。

ニッチ・トップ（オンリー・ワン）をねらう

- ・ 独自の地域資源に徹底的に拘ることが、強いこだわりを抱く来訪者に対してもアピールできる。そして、目に見えて手の届くマーケットは小さくとも、その先にいるであろう潜在顧客に対して訴える力のあるニッチ・トップを目指していくことが重要である。

資源・地域を「つなぐ」ことにより、地域の総合力を高める

- ・ そこにしかない地域資源を「つなぐ」こと「ストーリー仕立てでアピールする」ことが、「産業ツーリズム」の魅力を高め、さらにそのプログラムを広域で「つなぐ」ことにより、顧客の選択可能性が広がり、関西全体の総合的な魅力づくりにつながっていき、それが地域へと還元されることとなる。

新たな技術を活用し、ニューサービスを生み、効果的な情報を届ける

- ・ IT(情報通信技術)の技術革新とそのシステムの普及による影響範囲は、ビジネス・モデル、コミュニケーションの方法まで、多岐に及び、さらに地域の可能性を高めることも十分に可能である。案内情報、事前情報に限らず、地域に関わる情報をどのように顧客対象に伝えるか、その方法について検討することで、ニューサービスの提供や効果的な情報発信が可能となる。

「人（人財力）」を介した「もてなし・サービス」を充実する

- ・ 学びや体験、交流といった活動には必ずといってよいほど、「人」が介在する。その意識付け、もてなし(ホスピタリティ)のこころと態度、必要な知識の習得など、地域のもっとも貴重な地域資源である「人財力」を磨くことが求められる。

## 5. 「産業ツーリズム」の普及・推進に向けた方策の検討

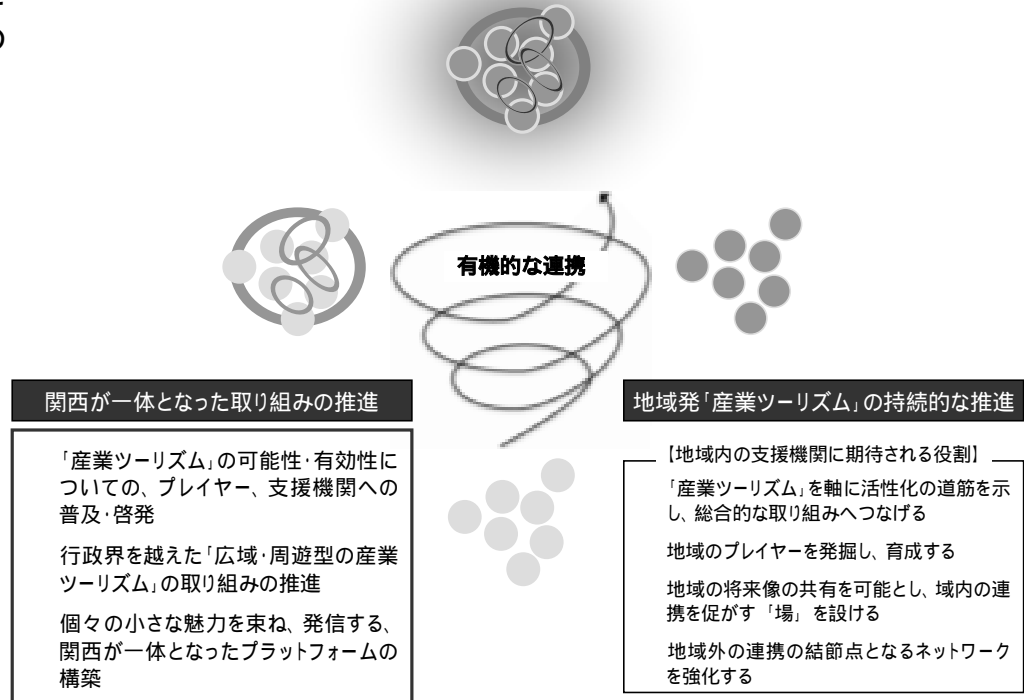
### 5-1. 関西が目指す「産業ツーリズム」の方向性

地域資源を活かした「産業ツーリズム」が推進されることにより、「地域力」が高まり、産業振興、まちづくり、人づくりといった地域活性化との好循環が創出されることが期待される。こうした地域の魅力を束ね、関西として一体的な取り組みを推進することにより、地域と関西との間にも「好循環」が生まれ、地域活性化の効果の高まりが期待される。

地域発「産業ツーリズム」の持続的な推進と 関西が一体となった取り組みを  
有機的に連携させることにより

関西のブランド力を強化し、

地域の持続的な発展との好循環を生む「産業ツーリズム」



## 5 - 2 . 関西における「産業ツーリズム」振興の方策

関西が一体となって「産業ツーリズム」の普及・推進を振興していくためには、以下のような方策を推進していくことが有効である。

- ・ 「産業ツーリズム」の可能性・有効性についての、プレイヤー、支援機関への普及・啓発
- ・ 「産業ツーリズム」の普及・啓発のためのシンポジウム・セミナー等の開催
- ・ 地域の活動を支える専門人材、地域の活動人材とをマッチングする「懇談会」の継続

行政界を越えた「広域・周遊型の産業ツーリズム」の取り組みの推進

- ・ 地域間のゆるやかな連携体（コンソーシアム）構築の促進
- ・ 「広域・周遊型の産業ツーリズム」のルート開発と、モデルツアーの試行

個々の小さな魅力を束ね、発信する、関西が一体となったプラットフォームの構築

- ・ 地域、人材、官民をヨコ串にする 関西一体型の 推進母体の設置
- ・ 「関西版 産業ツーリズム」をアピールする、統一ロゴ・マークの検討
- ・ ホームページ等を活用した関西一体の情報発信